

引用文献

- Andrew J., (1984). *Nursing Practice The Ethical Issues*. Englewood Cliffs, N.J. : Prentice-Hall.
- 青柳優子. (2016). 医療従事者の倫理的感受性の概念分析. *日本看護科学会誌*, 36, 27-33. <https://doi.org/10.5630/jans.36.27>
- Barlow, N. A., Hargreaves, J., Gillibrand, W. P. (2018). Nurses' contributions to the resolution of ethical dilemmas in practice. *Nursing ethics*, 25(2), 230-242. <https://doi.org/10.1177/0969733017703700>
- Fourie, C., (2015). Moral Distress and Moral Conflict in Clinical Ethics. *Bioethics*, 29(2), 91-97. <https://api.istex.fr/ark:/67375/WNG-J8MTL1X9-1/fulltext.pdf>
- 古川智巳, 祝あゆみ, 鈴木章仁, 務台均. (2015). 急性期脳卒中患者における在宅復帰, 在院日数およびADL改善に関連する要因の検討. *長野県作業療法士会学術誌*, 33, 81-95.
- Gorelick, P. B., Furie, K. L., Iadecola, C., Smith, E. E., Waddy, S. P., Lloyd-Jones, D. M., Zerna C. (2017). Defining Optimal Brain Health in Adults: A Presidential Advisory From the American Heart Association/American Stroke Association, *Stroke*, 48(10), 284-303. <https://doi.org/10.1161/STR.000000000000148>
- 猪飼周平. (2011). 地域包括ケアの社会理論への課題 : 健康概念の転換期におけるヘルスケア政策(〈特集〉地域の生活基盤と社会政策-社会政策学会第120回大会共通論題). *社会政策学会誌*, 2(3), 21-38.
- 伊藤千晴, 太田勝正. (2008). 新人看護師が直面する倫理上のジレンマと看護倫理教育のニーズ: A病院における事例を通じて. *日本看護学教育学会誌*, 18(2), 41-49.
- 伊藤真理, 栗原早苗, 樽松久美子, 多田昌代, 戸田美和子. (2014). 集中治療室で終末期に至った患者に対する急性・重症患者看護専門看護師の倫理調整. *Journal of Japan Academy of Critical Care Nursing*, 10(3), 11-21.
- 岩本幹子, 溝部佳代, 高波澄子. (2006). 大学病院において看護師が体験する倫理的問題. *日本看護学教育学誌*, 16(1), 1-12.
- (株)インセプト. (2018). IT用語辞典 e-WORD. [ウェブサイト] <https://e-words.jp/> (検索日: 2022年7月2日)
- 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題 に関する調査報告書 【修正版】 2019年6月. 一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会. (2019).

- 加藤直也, 高橋俊子, 川田知美, 本間大智, 坂井一哉, 片桐夏樹, 仁藤有美子, 新野麻祐子, 佐藤恵, 岡崎資恵, 山口智史, 椿野幸子. (2019). 当院急性期病院の退院時リハビリテーション指導の現状と展望. 山形済生館医誌, 44(1), 26-31.
- 柏崎純子, 福宮智子. (2022). 専門看護師による倫理研修のプログラムの評価: 受講者の倫理的意識と行動の変化に着目して. 日本看護倫理学会誌, 14(1), 28-35.
- 川村三希子, 齋若菜, 古都昌子, 矢野祐美子, 菊地ひろみ, 石岡明子, … 田中いずみ. (2020). 倫理的感受性のアセスメントの視点と倫理的感受性を育むアプローチ: がん看護専門看護師の倫理調整場面から. SCU Journal of design & nursing, 14(1), 3-12.
- クラウス・クリッペンドルフ. (1980/1989). 三上俊治, 椎野信雄, 橋元良明(訳), メッセージの技法「内容分析」への招待. 勁草書房.
- 木村里美, 溝口浩子, 宇野美弥子, 中嶋博吉, 都田勉, 日置康志, … 塩見直人. (2019). 臨床倫理コンサルテーションチームの実践と効果臨床倫理多職種研修で参加者が得ていること. 済生会滋賀県病院医学誌, 28, 39-42.
- 小森晃. (2011). 倫理的感性が行動制限最小化にもたらすもの. 精神科看護, 38(2), 15-20.
- 厚生労働省. (2015). 地域医療構想について. [ウェブサイト]
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000094397.pdf>
(検索日: 2022年3月28日)
- 厚生労働省. (2018). 第17回救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会. [ウェブサイト]
<https://www.mhlw.go.jp/content/10802000/000563879.pdf> (検索日: 2022年3月28日)
- 厚生労働省. (2019). 社会保障審議会 介護保険部会(第77回) 資料1-1 令和元年5月23日 地域包括ケアシステムの推進(多様なニーズに対応した介護の提供・整備) 令和元年5月23日 厚生労働省老健局. [ウェブサイト]
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000184159_00004.html (検索日: 2022年3月28日)
- Lynne C, B. W., Kristi L.K., (2009). Ethical Issues in the Care of Stroke Survivors. Stein, J., Zorowitz, R., Harvey, R., Macko, R., Winstein, C. (編), Stroke Recovery and Rehabilitation (pp.667-681). CINAHL Plus with Full Text.
- 前田絵莉菜, 薄井美紀. (2018). 精神科女子療養病棟勤務看護師が看護介入時に感じる倫理的ジレンマについての調査. 日本精神科看護学術集会誌, 61(1), 478-479.
- 松本晴美, 三木佐登美, 東村昌代, 年梅英子. (2006). 大学病院に勤務する看護師の倫理

- 的問題に関する調査. 大阪大学看護学雑誌, 12(1), 71-77.
<http://hdl.handle.net/11094/56899>
- Max, H. B. & Ann, E. T., (2011/2013). 池村千秋(訳), 谷本寛治(解説), 倫理の死角なぜ人と企業は判断を誤るのか. NTT 出版株式会社.
- 宮内沙樹, 徳永寛子, 三宅康子, 齊藤三江子, 黒瀬水紀. (2017). 循環器病・脳卒中センターで勤務する看護師の倫理的問題に対する認識. 国立病院機構四国こどもととなの医療センター医学雑誌, 4(1), 60-66.
- 村田尚恵. (2012). 日常の看護実践で遭遇する倫理的問題に対する看護師の行動の背景にある思い. 日本看護倫理学会誌, 4(1), 9-14. <https://doi:10.32275/jjne.4.1.9>
- 水澤久恵. (2009). 病棟看護師が経験する倫理的問題の特徴と経験や対処の実態およびそれらに関連する要因. 生命倫理, 19(1), 87-97.
- 中村めぐみ, 中島千春, 山本光映, 高橋美賀子, 田村富美子, 紺井理和, … 鶴若麻理. (2018). 聖路加国際病院看護師に対する臨床倫理教育プログラムに関する実践報告: 多分野の専門看護師の協働. 聖路加国際大学紀要, 4, 91-97.
- 内閣府. (2018). 第1章 高齢化の状況.
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_2_2.html
[ウェブサイト] (検索日: 2022年3月28日)
- 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会. (2015). 脳卒中ガイドライン 第1版. 株式会社協和企画.
- 日本看護協会. (2013). 「継続教育の規準 Ver. 2」活用のためのガイド. 公益社団法人日本看護協会. <https://www.nurse.or.jp/nursing/education/keizoku/pdf/ver2-guide-2-all-0805.pdf> [ウェブサイト] (検索日: 2022年7月2日)
- 日本看護協会. (2015). 看護の将来ビジョン いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護. 公益社団法人日本看護協会.
<https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf> [ウェブサイト] (検索日: 2022年3月28日)
- 日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会. (2019). 看護倫理ガイドライン. 看護の科学社.
- 小川和美, 寺岡征太郎, 寺坂陽子, 江藤英子. (2014). 臨床看護師が体験している倫理的問題の頻度と程度. 日本看護倫理学会誌, 6(1), 53-60.
<https://doi:10.11477/mf.7001100103>
- Okubo, Nobuko., Yokoyama, Eriko., Honda, Keiko., Takeda, Kihoko., Sakai, Hiromi., Ishii, Rie., … Miura, Yuriko. (2021). Improving Clinical Nurses' Competency and Nursing Care Using the Research Process Model. The Australasian journal of neuroscience, 31(2), 15-17. <https://doi:10.21307/ajon-2021-005>

- 大生定義. (2013). 臨床倫理教育の実践とプロフェッショナリズム. 一般社団法人 日本内科学会, 102(6), 1518-1522. <https://doi: 10.2169/naika.102.1518>
- Patricia Benner. (2001/2005). 井部俊子「監訳」, ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 医学書院.
- Rannikko, S., Minna, S., Riitta, S., Helena, Leino-Kilpi. (2019). Ethical issues in the care of patients with stroke: A scoping review. *Journal of clinical nursing*, 28(1-2), 20-31. <https://doi: 10.1111/jocn.14661>
- Rejnö, Åsa., Berg, L. (2015). Strategies for handling ethical problems in end of life care: obstacles and possibilities. *Nursing ethics*, 22(7), 778-789. <https://doi: 10.1177/0969733014547972>
- 境美穂子, 工藤せい子. (2013). 脳・神経系病棟に勤務する看護師の倫理的問題に関する研究. *日本看護倫理学会誌*, 5(1), 63-70. <https://doi: 10.11477/mf.7001100085>
- サラ T. フライ. メガン-ジェーン・ジョンストン. (1994/1998). 片田範子, 山本あい子 (訳), 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド. 日本看護協会出版会.
- Silén, M., Tang, P.F., Wadensten, B., Ahlström, G. (2008). Workplace Distress and Ethical Dilemmas in Neuroscience Nursing. *The Journal of neuroscience nursing*, 40(4), 222-231. <https://doi: 10.1097/01376517-200808000-00006>
- 曾我美里子, 勝部千賀子, 高田佳世, 大森眞澄. (2019). 精神科で働く新任看護師の倫理的ジレンマと対処. *日本精神科看護学術集会誌*, 62(1), 308-309.
- 菅原スミ. (1997). 臨床看護婦の倫理的ジレンマの構造と生命倫理原理: エンゲルハートの「自律」・「恩恵(善行)」の原理を分析視点として. *生命倫理*, 7(1), 95-102.
- 菅原スミ, 俵積田ゆかり, 田中千鶴子, 田中晶子, 岡本明子. (2012). 看護師の倫理的ジレンマの経験状況と対処行動. *昭和大学保険医療学雑誌*, 9, 113-119.
- 橘 達枝. (2020). 医師と看護師の協働の場面で生じる倫理的葛藤に対する認識の傾向. *川崎市立看護短期大学紀要*, 25(1), 15-25.
- 田口めぐみ, 宮坂道夫. (2015). 看護師がチームワークの中で経験する違和感・ジレンマについてのナラティブ分析. *日本看護倫理学会誌*, 7(1), 45-53. https://doi:10.32275/jjne.7.1_45
- 高田早苗. (2010). 改めて抑制を問う: 看護倫理研究の再需要課題. *日本看護倫理学会誌*, 12(1).
- 照沼 則子. (2016). チーム医療における倫理的感受性とは. *日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌*, 26(1), 1-6.

手島恵「監」. (2022). 看護職の基本的責務定義・概念/基本法/倫理. 日本看護協会出版
会.

Ulrich, C. M., Taylor, C., Soeken, K., O'Donnell, P., Farrar, A., Danis,
M. …Grady, C. (2010). Everyday ethics: ethical issues and stress in
nursing practice. *Journal of advanced nursing*, 66(11), 2510-2519.
[https://doi: 10.1111/j.1365-2648.2010.05425.x](https://doi.org/10.1111/j.1365-2648.2010.05425.x)

World Stroke Organization. (2016). World Stroke Organisation STRATEGY 2020-2022.
ExecutiveSummary. file:///C:/Users/mimot/Downloads/WSO_strategy_paper_2020-
2022_Exsecutive_Summary_online.pdf